

# コンクリート診断技術'19 正誤表

「コンクリート診断技術'19」の記述につきまして、下表のとおり訂正します。

2019年10月3日

コンクリート診断士講習委員会

(誤) 応用編 p.26 表 3.4.2-3 「鉄道構造物の主な設計作用」の表中に「網掛け」が施されていない。

(正) 同表の「列車荷重」、「衝撃荷重」、「遠心荷重」、「車両横荷重・車輪横圧荷重」、「制動荷重・始動荷重」、「ロングレール縦荷重」の作用に網掛けを施す。

(誤)

(正)

作用の種類		特徴
永久作用	固定死荷重	変動がほとんどないが、変動が持続的成分に比べて無視できるほど小さい作用
	付加死荷重	
	プレストレスカ	
	コンクリートの収縮の影響	
	コンクリートのクリープの影響	
土圧		
変動作用	列車荷重	変動が頻繁または連続的に起こり、かつ変動が持続的成分に比べて無視できないほど大きい作用
	衝撃荷重	
	遠心荷重	
	車両横荷重・車輪横圧荷重	
	制動荷重・始動荷重	
	ロングレール縦荷重	
	温度変化の影響	
	水圧、流水圧、波力	
	風荷重	
雪荷重		
偶発作用	地震の影響	発生する頻度は稀であるが、発生すると構造物または部材に重大な影響を及ぼす作用
	自動車の衝突荷重	

作用の種類		特徴
永久作用	固定死荷重	変動がほとんどないが、変動が持続的成分に比べて無視できるほど小さい作用
	付加死荷重	
	プレストレスカ	
	コンクリートの収縮の影響	
	コンクリートのクリープの影響	
土圧		
変動作用	列車荷重	変動が頻繁または連続的に起こり、かつ変動が持続的成分に比べて無視できないほど大きい作用
	衝撃荷重	
	遠心荷重	
	車両横荷重・車輪横圧荷重	
	制動荷重・始動荷重	
	ロングレール縦荷重	
	温度変化の影響	
	水圧、流水圧、波力	
	風荷重	
雪荷重		
偶発作用	地震の影響	発生する頻度は稀であるが、発生すると構造物または部材に重大な影響を及ぼす作用
	自動車の衝突荷重	

(誤) 応用編 p.27 表 3.4.2-5 「道路橋の設計荷重」の表中に「網掛け」が施されていない。

(正) 同表の「活荷重」、「衝撃」、「クリープの影響」、「乾燥収縮の影響」、「温度変化の影響」の作用に網掛けを施す。

(誤)

(正)

荷重の種類	備考
死荷重	材料の単位重量を規定
活荷重	A 活荷重、B 活荷重
衝撃	支間長をパラメータとし、橋梁種別、首目荷重によって算出式が異なる
プレストレスカ	プレストレス後と有効プレストレスカを考慮
クリープの影響	材齢やセメントの種類によって定められたクリープ係数で算出
乾燥収縮の影響	材齢によって乾燥収縮度を規定
土圧	地盤別、土質別に壁面に働く分布荷重として載荷
水圧	静水圧、流水圧、動水圧
浮力または揚圧力	転倒や滑動の場合には考慮、支持の場合は無視
風荷重	上部構造には橋軸直角に作用する水平荷重、下部構造には2方向とも検討
温度変化の影響	コンクリート構造物に対して、一般的には5℃~35℃、寒冷地では-5℃~25℃
地震の影響	耐震設計編による
雪荷重	雪の平均単位重量3.5kN/m <sup>2</sup>
地盤変動の影響	基礎周辺の任意状下、軟弱地盤の側方移動、洗掘、河床低下
特相注 特殊 荷重	支点移動の影響 不静定構造物の地盤沈下に伴う支点の移動、回転 波 圧 波力は静水面上1.25m(沖波の波高の高さから海底まで)一様分布
遠心荷重	通常は無視
制動荷重	橋面上1.8mの高さに25kNが進行方向に作用
施工時荷重	施工方法及び施工中の構造とを考慮
衝突荷重	路面から1.8mの高さで車道方向について1000kN、直角方向については500kNが作用

荷重の種類	備考
死荷重	材料の単位重量を規定
活荷重	A 活荷重、B 活荷重
衝撃	支間長をパラメータとし、橋梁種別、首目荷重によって算出式が異なる
プレストレスカ	プレストレス後と有効プレストレスカを考慮
クリープの影響	材齢やセメントの種類によって定められたクリープ係数で算出
乾燥収縮の影響	材齢によって乾燥収縮度を規定
土圧	地盤別、土質別に壁面に働く分布荷重として載荷
水圧	静水圧、流水圧、動水圧
浮力または揚圧力	転倒や滑動の場合には考慮、支持の場合は無視
風荷重	上部構造には橋軸直角に作用する水平荷重、下部構造には2方向とも検討
温度変化の影響	コンクリート構造物に対して、一般的には5℃~35℃、寒冷地では-5℃~25℃
地震の影響	耐震設計編による
雪荷重	雪の平均単位重量3.5kN/m <sup>2</sup>
地盤変動の影響	基礎周辺の任意状下、軟弱地盤の側方移動、洗掘、河床低下
特相注 特殊 荷重	支点移動の影響 不静定構造物の地盤沈下に伴う支点の移動、回転 波 圧 波力は静水面上1.25m(沖波の波高の高さから海底まで)一様分布
遠心荷重	通常は無視
制動荷重	橋面上1.8mの高さに25kNが進行方向に作用
施工時荷重	施工方法及び施工中の構造とを考慮
衝突荷重	路面から1.8mの高さで車道方向について1000kN、直角方向については500kNが作用